

北京日本学研究中心

通 讯 《第10号·第11号合并号》

责任编辑：山下纪久枝 谯燕 邮政编码：100081 Tel: 8422277--584 1991.5.15.

离 任 致 辞

户川芳郎

3月31日，我将辞去日本学研究中心主任教授之职，离任回国。在职一年又七个月，正值实施第二个五年规划的初期，我的精力主要放在了为中心的研究、教育体制的完备打基础之上。也可以说，贯彻了由李德、尾上两主任确立了的基本方针，具体做了以下三件事：

第一、在日本学各专业(共4个专业)的硕士课程中又加上了「演习」课，进一步强化了指导研究的工作。

第二、慎重挑选了赴日读博士课程的候选人，作为文部省奖学金生派往日本。

第三、招聘了客座教授和客座研究员，活跃了中心的科研、教育工作。

我的日常工作中杂事极多，就如同一个中学的教务主任，特别是在授学位和入学考试手续上费时极多，同时也为中心工作中教员和工作人员的职权混乱，职责不分而大伤脑筋。

中心将要做的工作有充实图书资料馆和发行研究杂志，同时为了迎接留学归国的研究员要设置完备各「研究室」。而当前首先要做的是配备好中国方面的专职主任和日本方面合作好，我期望能有一个象刘耀武先生这样的学识造诣高的人来担任。

另则，忙中偷闲，我非常高兴访问了爱辉历史馆，通什博物馆，乌鲁木齐南山牧场等地。最后，我对各位的大力协助表示衷心的感谢！（于日平译）

关于下期客座研究员的招聘

关于下期客座研究员的招聘，已决定了以下要点。预定5月15日给符合条件者发送有关应聘书类。

○期间：1991年9月～

○任期：6个月或12个月

○资格：本中心毕业，取得硕士学位者。

○应聘期间：5月15日～6月30日

○选拔：中日主任教授协商，以研究业绩为主进行选拔。

※客座研究员的招聘每年隔6个月进行一次。

☆ 简讯 (第10号) ☆

△ 3月15日,为调查在中国的日语教育情况,文部省代表团一行来到了中心,在听取了中心情况介绍后参观了研修班的课,并和研修班举行了简单的座谈。

△ 3月18日晚,在皇苑大酒店,中方举行了欢迎、欢送日方派遣专家宴会。会上北京外国语学院王福祥院长致了欢迎欢送词。对此,日方于3月29日晚在香格里拉饭店举行了答谢宴会。国家教育委员会国际合作司赵永魁副司长、朱小玉同志、日本驻华使馆一秘山崎正亲等出席了宴会。

△ 中心图书馆资料室(一层大教室)的改建工程正在进行。工程原计划4月中旬完成。现在,工程将稍许推迟完工。
(于日平译)

自我介绍

(本学期新任客座教授、客座研究员自我介绍)

○刘耀武(客座教授。黑龙江大学日语系名誉主任、教授。)

专业为俄语语言学、日语语言学、普通语言学。现为中国日语教学研究会会长、国家教委学位评审委员会成员等。《国外语言学》等杂志编委。主要著作及译著有:《日语文法研究》《日语词汇学》《语言学漫步》《词的语法学说导论》等。

○万峰(客座教授。中国社科院世界历史研究所研究员兼研究生院教授)

专业为日本近现代史。担任中国日本史学会会长、中华日本学会顾问等。主要著作有:《日本军国主义》、《日本近代史》、《日本资本主义史研究》、《日本法西斯主义的兴亡》等。

○于日平(客座研究员。自我介绍请参考通讯第七号)

○张景翔(客座研究员。中心第一期毕业生,现为北京外国语学院讲师。)

1963年出生于北京。1985年9月考入北京日本学研究中心,学习日本文化·日本美术史。86年8月~87年2月曾在日本东北大学进修。

○王成(客座研究员。中心第一期毕业生,现为北京第二外国语学院讲师)

27岁。1985年山东大学毕业后考入日本学研究中心。语言文学专业,曾于1986年8月~1987年2月在东京学艺大学进修。

○宋国忠(客座研究员。中心第一期毕业生,现在北京语言学院任教)

1963年11月18日生。1985年9月从国际关系学院考入中心社会文化专业社会学方向。兴趣广泛,喜爱足球。

○马朝红(客座研究员。中心第一期毕业生,现在北京语言学院任教)

1964年6月23日生。1981年由长春考入北京外国语学院日语系。后考入中心语言文学班。研究方向为日本近现代文学。

〔通訳・日本語版〕

離任ごあいさつ

戸川 芳郎

この3月31日、私は本研究センターの主任教授の任を解かれて帰国します。在職1年7か月、第2次5ヵ年事業の初年度に際会し、その研究・教育体制の基礎づくりに専念しました。すでに李徳一尾上両主任の敷かれた基本路線の上を歩んできたと言えます。

1. 日本学専攻（4専修）修士課程のカリキュラムに「演習」を加えて、研究指導を強化徹底させること。
2. 博士課程進学候補を銓衡し、文部省奨学生として留学させること。
3. 客員教授・研究員を招聘・募集して、研究・教育を活発にすること。

等が具体化しました。

日常は、私の職として中学高校の教頭なみの雑務に終始しましたが、とくに学位審査制度や入試業務手続きの複雑さに力を費やしたり、教員職と事務職の職分が錯綜して職責が明確でない実情に大いに困惑しました。

本センターの将来は、一にかかって図書資料館の充実と研究誌の刊行です。そして留学して帰国する研究者を迎え入れるべく「研究室」を構築することにあります。

ただいま必要なことは、私のパートナーつまり中国側の主任が専補されること、劉耀武教授のごとき学績のある方の来任を待望する次第です。

終わりに、忙中偷閑、愛輝歴史館や通什博物館やウルムチ南山牧場を過訪できましたことがうれしい。皆さまのご協力に感謝します。

次期客員研究員の募集について

次期客員研究員の募集について、以下のような要項が決められた。該当者には応募関係書類を5月15日に発送する予定である。

- 期間：1991年9月～
- 任期：6か月ないし12か月
- 資格：本センターを卒業し、修士学位を取得した者。
- 応募期間：5月15日～6月30日
- 選考：中日主任教授が協議し、研究業績を中心に選抜する。

※なお、客員研究員の応募は毎年6か月ごとに行う。

ニュース (第10号)

- ☆ 3月15日午後、「中国における日本語教育事情調査」のため、文部省派遣の一行がセンターを来訪、センターの現状を視察した。また、研修コースの授業を見学し、研修生と簡単な座談会を行った。
- ☆ 3月18日夜、皇苑大酒店において、中国側主催で日本側派遣教授の歓送迎会が開かれ、北京外国語学院王福祥院長が歓送迎の辞を述べた。
これに対し、3月29日夜、香格里拉飯店で日本側の答礼宴が開かれ、国家教育委員会国際合作司趙永魁副司長、日本大使館山崎正親一等書記官、その他の各位が出席した。
- ☆ 現在、センターの図書資料館（一階大教室）の改修工事が進められている。この改修工事は当初4月中旬に完成の見込みであったが、現在、完成が遅れている。

自己紹介 (今学期の新任の方)

- ◇劉耀武（客員教授。黒龍江大学日語系名誉主任。教授）
ロシア語学、日本語学、言語学専攻。現在、中国日語教学研究会会長、国家教育委員会学位評議員。雑誌「国外語学」等を編集。主な著作、訳書は「日語文法研究」「日語詞匯学」「言語学漫歩」「詞的語法學說導論」等。
- ◇万 峰（客員教授。中国社会科学院世界歴史研究所研究員兼研究生院教授。）
日本近現代史専攻。中国日本史学会会長、中華日本学会顧問などを担当する。主な著作は、「日本軍国主義」「日本近代史」「日本資本主義史研究」「日本ファシズムの興亡」など。
- ◇于日平（客員研究員。通説第7号の「自己紹介」参照のこと。）
- ◇張景翔（客員研究員。センター第1期卒。現在、北京外国語学院講師。）
1963年北京に生まれる。1985年センターに入り、日本文化・日本美術史を専攻。86年8月から87年2月まで東北大学で研修。
- ◇王 成（客員研究員。センター第1期卒。現在、北京第二外国語学院講師。）
27歳。1985年山東大学卒業後、センターの言語・文学コースに入り、日本文学を専攻。1986年8月から87年2月まで東京学芸大学で研修。
- ◇宋国忠（客員研究員。センター第1期卒。現在、北京語言学院外国語学部教師。）
1963年11月18日生。1985年9月国際関係学院からセンターの試験を受けて、社会・文化コースに入り、社会学を専攻。趣味はサッカー。
- ◇馬朝紅（客員研究員。センター第1期卒。現在、北京語言学院外国語文学部教師。）
1964年6月23日生。1981年長春から北京外国語学院日語系に入学。85年センターの言語・文学コースに入り、日本近現代文学を専攻する。

第3回日本学中日シンポジウム開催

本センターでは、第3回日本学中日シンポジウム（青年シンポジウム）を下記の日程で開催する。このシンポジウムは、本センターの卒業生、修了生を中心とした若手研究者に研究成果を発表する機会を与え、あわせてこれらの研究者が中日両国の専門研究者から適切な助言を得る機会を持つことを目的としている。応募者は50名で、うち37名（語学9、文学10、文化12、社会6）が発表を許可された。発表の可否は、各専攻の教授の審査結果に基づいて決定された。また、第2日目の午後には、中日両国の著名な先生方による特別講演会を行う。皆様のご参加をお待ちしている。

日時：6月7日（金）、8日（土）の2日間

会場：北京外国語学院西院 北京日本学研究センター

	午 前	午 後
六 月 七 日	開幕式（8:30～8:50）1階階段教室 分科会（9:00～11:40） 日本語学Ⅰ（3階電教室） 日本文学Ⅰ（303教室） 日本文化Ⅰ（305教室） 日本社会Ⅰ（304教室）	分科会（1:30～4:50） 日本語学Ⅱ（3階電教室） 日本文学Ⅱ（303教室） 日本文化Ⅱ（305教室） 日本社会Ⅱ（304教室）
六 月 八 日	分科会（9:00～11:00） 日本文学Ⅲ（303教室） 日本文化Ⅲ（305教室）	特別講演会（1:00～5:00） 場所：1階階段教室 閉幕式（5:00～5:10） 場所：1階階段教室

☆特別講演会

1. 日本文化をどう理解するか

村井康彦（国際日本文化研究センター教授・日本文化史）

2. 日本文化戦略

万峰（中国社会科学院世界歴史研究所研究員・教授・日本近現代史）

3. 「源氏物語」の表現にみる日本的論理

秋山虔（東京女子大学教授・日本古典文学）

4. 関于夏目漱石「我是猫」漢訳問題探討

劉徳有（中華日本学会会長・教授・日本文化）

ニュース (第11号)

- ☆ 新しい主任教授・佐藤保先生（お茶の水女子大学教授）が4月29日、北京日本学研究中心センターに着任した。
- ☆ 5月6日、センター大学院第7期生の口述試問が行われ、28名が受験した。なお、合格定員は20名である。
- ☆ 4月21日、センター研修コース第7期生の入学試験が、全国5か所の会場で行われた。
- ☆ 5月4日、国際交流基金光田明正常務理事一行がセンターを訪問した。

公開講座・雑感

♡第1回「日本中世における文学と絵画の連携」 宮次男先生

宮先生の手によって、日本美術の宝庫の扉が私達に向かって開かれた。先生の知識の豊かさだけでなく、多くの聴衆を対象とした適切で簡明な説明から見られた名学者の風格に一層感服した。

(文化1年・黄栄光)

♡第2回「演説体日本語について」 武部良明先生

15時30分。武部先生は、結論の部分を言い終わって、ゆったりと腕時計を見た。ちょうど約束の時間だ。雷のような拍手の音が響いた。テーマは「演説体日本語について」さすが元衆議院速記者養成所教授だなあとみな敬服した。

(研修コース・任常毅)

♡第3回「資本主義国家における国家と宗教」 土屋英雄先生

人格の自由な展開のために、国家と宗教の分離は必要条件である。日本国憲法で国家の非宗教性が明確に規定されているが、事実上、政治の上で宗教が利用されやすい。先生は政教分離の解釈と憲法上の“宗教”について説明した。

(社会1年・石洪)

♡第4回「仮名書法の発達と美」 野口元大先生

野口先生の講座は豊富な内容と生き生きした雰囲気、学生たちの好評を博した。大学の時も仮名に対する知識は少しあったが、仮名書法の発達とその美術的価値についてはあまり知らなかった。この講座で、その基礎知識を身につけた。

(文学1年・馮紅霞)

♡第5回「日本語の動詞の語構成をめぐる ― 現代語を中心に」 東郷吉男先生

東郷先生の講座を聞いて、動詞についての視野が広がった。普通、考えの及ばないところまで研究なさっていること、語構成から見た動詞の将来像を描いていること、この2つの点が、最も印象深かった。

(言語1年 沈麗莉)

〔お詫び〕

客員研究員の募集要項について、戸川前主任教授の帰国後、佐藤新主任教授の着任まで、約1か月協議が停止されたため、「通説」第10号の発行が遅れました。

关于召开第三届中日日本学研讨会

本中心将召开第三届中日日本学研讨会（青年研讨会），日程如下。此次研讨会，目的在于为以本中心的毕业生为主的青年学者提供发表研究成果的机会，并借此机会得到中日两国专家的指导。报名参加者50名，经各专业教授评审，其中37名（语言学9名，文学10名，文化12名，社会6名）获得了发表的资格。发表会为期两天，第二天下午举行中日两国著名学者的特别讲演会。敬请各位参加。（宋国忠译）

日程：6月7日（星期五）、8日（星期六）两天

会场：北京外国语学院西院 北京日本学研究中心

	上 午	下 午
六 月 七 日	开幕式(8:30~8:50)一层阶梯教室 分科会(9:00~11:40) 日本语学 I (3层电教室) 日本文学 I (303教室) 日本文化 I (305教室) 日本社会 I (304教室)	分科会(1:30~4:50) 日本语学 II (3层电教室) 日本文学 II (303教室) 日本文化 II (305教室) 日本社会 II (304教室)
六 月 八 日	分科会(9:00~11:00) 日本文学 I (303教室) 日本文化 I (305教室)	特别讲演会(1:00~5:00) 地点：1层阶梯教室 闭幕式(5:00~5:10) 地点：1层阶梯教室

◎ 特别讲演会

1、怎样理解日本文化

村井康彦(国际日本文化研究中心教授·日本文化史)

2、日本的文化战略

万 峰(中国社会科学院世界历史研究所研究员·教授·日本近现代史)

3、从『源氏物语』的表现看日本的论理

秋山虔(东京女子大学教授·日本古典文学)

4、关于夏目漱石『我是猫』汉译问题的探讨

刘德有(中华日本学会会长·教授·日本文化)

☆ 简 讯 (第 11 号) ☆

- ◎ 日本御茶之水女子大学教授佐藤保先生,作为中心新任日方主任教授已于 4 月 29 日到任。
- ◎ 中心第 7 期研究生复试(口试)已于 5 月 6 日在中心教学楼 3 层举行。参加口试者共 28 人,将从中择优录取 20 名。
- ◎ 中心第 7 期教师进修班入学考试已于 4 月 21 日在全国 5 个考区进行。
- ◎ 5 月 4 日,日本国际交流基金常务理事光田明正先生等一行访问了中心。

公 开 讲 座 · 杂 感

※ 第一次「日本中世的文学和绘画的连携」 宫 次男先生

可以说,是宫先生为我们打开了日本美术宝库的大门。在我看来,先生知识的渊博确实让人钦佩,但立足于听众知识基础上的深入浅出而流畅的解说中流露的那份蔼蔼然长者之风度更令人感动。(文化一年级 黄荣光)

※ 第二次「谈演讲体日本語」 武部 良明先生

下午 3 点 30 分。先生讲完结束语的最后一句,从容地看了看表。与开讲时预告的时间分秒不差!掌声雷动。真巧,讲座题为「谈演讲体日本語」。“果不愧为众议院速记记者养成所教授!”,大家不禁交口称赞。(研修班 任常毅)

※ 第三次「资本主义国家的国家与宗教」 土屋 英雄先生

政教分离是实现人的精神与人格自由发展的必要条件。日本宪法明确规定了国家的非宗教性,但事实上两者的完全分离是不可能的,宗教常常被利用于政治当中。土屋先生以生动的事例具体地向我们讲述了日美两国对“政教分离”的解释以及对宪法上的“宗教”的认识,对我们很有启发。(社会一年级石洪)

※ 第四次「仮名书法的发展及其美」 野口 元大先生

中心教授们的讲座各具特色,让我们学到了许多专业以外的知识。野口先生的讲座内容丰富,寓教于乐,形象性强,气氛活泼,博得了同学们的好评。在大学期间,我们对仮名也有所了解,但对仮名书法的发展和美术价值却知之甚少。野口先生的讲座让我们较好地掌握了这些知识。(文学一年级 冯红霞)

※ 第五次「关于日本語动词的语构成」-以现代语为中心- 东乡 吉男先生

4 月 25 日,听了东乡吉男先生的公开讲座,使我对日语动词有了进一步的了解。东乡先生的讲座有两点令我印象最深。一是对动词的研究涉及的面很广,二是描绘了从词的构成研究动词的前景。(言语一年级 沈 丽莉)

(道歉)

因户川前主任教授回国到佐藤新主任教授到任的约 1 个月中,停止了关于客座研究员招聘要点的协商,故「通讯」第 10 号的发行推迟了。